

自然案内人だより

No.1 (2006年2月15日発行) 発行人:早川広美

★最近の活動から

～里山の保全や自然案内人としてどんなことをしているのか？その一部をお伝えします～

♪新宿・子育てを考える会の遠足で05年5月新宿御苑に続きネイチャーゲーム(11月、昭和記念公園)。晩秋の森で小学校前のちびっこたちと楽しむ。

♪共働舎*のネイチャークラブ(毎月第1・3水曜)続行中。先日(06.2.1)は、雨だったので室内の窓辺でネイチャーゲームの<サウンドマップ>を実施。雨の音や鳥の音がそれぞれのカードに描かれていった。冬の間は1度「鳥」を中心にした活動をやってみたいと思い、その伏線として「鳥の4コマ漫画」作りをやったところ、とても楽しいお話ができた。秋祭り(05.11月)では紫蘇ジュース販売のお手伝いとオナモミダーツ。オナモミダーツが小学生に大人気で私もびっくり!

♪公園で保全と管理・運営の仕事、続行中。農閑期とはいえ、冬は冬でいろいろ忙しい!

♪横浜市立K小5年生の田んぼ作業指導を担当(05.4月～)。鶴見からなんと2時間もかけて通う生徒・先生・保護者の皆さんの熱意に感服。先日(06.2.9)は学習発表会を兼ねた「K小うまい米はうまいパーティー」に招かれ、おいしい雑煮(写真①)をごちそうになった。発表は1年間の田んぼ作業を劇にしてあり(なんと私も登場する)、その中にクイズあり、詩あり、歌ありで、そのどれもが豊かな言葉と身体表現で描かれている。子どもたちの持つ潜在能力に感嘆するとともに、子どもが持つ最高のものを引き出すことのできる先生方の指導力が素晴らしいと強く感じた。子どもの回りにいるおとなの影響の大きさを感じ、気が引き締まる思い。そしてそんな子どもたちのエネルギーを余裕たっぷりに受け止める自然にも感謝したい。3月初めに「田起こし」をやり、1年の作業は締めくくられる。

♪横浜市立M小4年生の山百合を増やす大作戦。公園の山百合を増やすために春から観察を続けていて、私もその担当として関わっている。12月に種を採り、それを学校で蒔いて苗にして、再び公園に植えてもらう「山百合の里親」に子どもたちがなってくれた。百合を種から育てるのは簡単ではないが、子どもたちは07年の12月(つまり6年生の12月)に再び植えに来ることを約束してくれた。今月23日には学習発表会が予定されている。

♪2年間関わった神奈川ムササビ調査隊のムササビ生息調査も05年8月で終了。現在ほかのスタッフが報告書をまとめてくれていて、間もなくできそうだ。私は横浜市南部の大緑地帯である円海山周辺の調査を2度実施した。そのほかに逗子で少し。私が調査した範囲では糞や食痕といった生息の「証拠」は見つからなかった。横浜にムササビはいないのだろうか。

♪日本ネイチャーゲーム協会会報等への原稿執筆。文章を書くことによって思考力が鍛えられる。2年に1度投票で選ばれるテーマに関連するシリーズを担当しているが、「先人の知恵/おばあちゃんの知恵袋」という現在のテーマがこの3月で終わるため、総まとめの記事を執筆した。新年度からは「いのちのつながり」がスタート。



写真①



写真②



写真③

★自己研修や現在勉強中のことなど

～実務の経験を積むと同時に、自己の能力向上を図ることや感性への刺激は欠かせない～

♪**ビオトープ管理士(施工部門・2級)**に合格!(05.12月)これは(財)日本生態系協会が認定する民間資格で、施工部門と計画部門に分かれ、それぞれに1級と2級がある。ビオトープ管理士とは、生態系を保護・保全するための専門家。今年度の2級の合格率は19%とのこと。結構難しい試験なのだ。しかし、これに受かったからといってすぐさま生態系保全の専門家とは到底言えない。やはり、経験を少しずつ積み重ねていかななくてはならない。現場は机上の理論どおりにキレイにはいかない。(写真②ビオトープ管理士現場研修会にて)

♪**アーティスト・イン・ミュージアム横浜でロイ・スターブ氏制作現場見学ツアーに参加(05.12.6)**。自然の中に自然の素材(草や竹など)で作品を作るスターブ氏。できあがった作品は基本的にはそのまま朽ちるにまかせているという考えに大いに共感。今回は横浜美術館(みなとみらい)前の2作品と、横浜自然観察の森の2作品を氏の案内により鑑賞(写真③)。春になる前にもう1度様子を見に行きたい。

♪**その他もろもろ!**:各種自然観察会に参加(折に触れ、^{いち}参加者になることはとても重要)・普通救命講習(再受講・除細動器の扱いも学ぶ)・気功太極拳(呼吸と心と体)・自分の声の力に気づく(声と呼吸と心)・イデオキネシス・森林療法などなど…

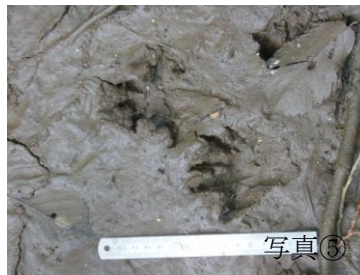
★自然観察日記

ヤマアカガエル 1月下旬から2月上旬にかけての雨の降った夜、ヤマアカガエルは土の中から出てきて池や田んぼに産卵をする。今年最初に卵塊を見たのは1月16日だった(周辺にはその後4つの卵塊が産み落とされた)。2月11日に一部が孵っていたが、多分この時の卵だろう。産卵を終えたカエルはまた土にもぐって眠りにつく(春眠)。他のカエルに先駆けてわざわざ冬眠の途中に出てきて卵を産むことで、他のカエルのオタマジャクシと競合しないようにしているのだろうか。本当に自然の摂理とはよくできているものだ(写真④)。3月には同じ池にアズマヒキガエルが産卵に来るだろう。

足跡探し 1月21日に大雪が降ったあと、雪上に残された足跡は人間のものばかりではなかった。山にはノウサギの足跡があった。また、先日「イタチがいる」との情報があり、雨上がりのあぜ道を注意深く歩いてみると、イタチの足跡は見つからなかったが、タヌキやアライグマの足跡はあった。鳥の足跡などは比較的に見つけやすいので、普段からぬかるんだところなどを注意して見ていると意外な発見があることもある(写真⑤はアライグマの足跡)。アライグマについてはいろいろあるので、別途書こうと思う。



写真④



写真③

*共働舎:横浜市泉区にある知的障害者のための通所授産施設。園芸・パン・陶芸の3部門がある。ここの全粒粉食パンは歯ごたえと小麦の味がしっかりしていて大好き。

早川広美…ちょっと紹介…

横浜市の里山を生かした公園でのスタッフとして自然の保護・保全やイベントの運営に喜びを見出す。一方、フリーの立場ではネイチャーゲームや自然観察などを取り入れた自然体験の場を提供する自然案内人。この「たより」で自然のことや私の仕事、活動のことなどについて発信していきたいと思います。横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。仕事の依頼や相談はこちらまでお気軽に→メール: hiromi-h@river.dti.ne.jp

